

## 「理科サークルの試み(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「サークル」といっても、何かの同好会・・・つまり「理科クラブ」というようなものではない。これは3年生の理科授業の「机の並べ方」の試みである。

本校には理科室(実験観察室)が一部屋しかない。上学年は各学年4クラスなので、2時間続きの授業だけで、ほぼ埋まってしまう。通常は、3年生は各教室で授業をしている。3年生の教室の児童机の配置は、クラスによって少しずつ異なる。基本的には、全員の机が黒板のほうを向いているクラスが多い。

私は理科の授業の時だけ、「コの字型」にしてみたり、真ん中を広くして、床にも座って説明を聞けるようにしたり、いろいろ試してみた。それぞれに長所、短所があり、特に実験と話し合いが交互に混在するタイプの授業では、どれもうまくいかなかった。そこで試みたのが「理科サークル」である。

### 「てつがくサークル」の形態

「サークル」は、下学年(1~3年)の子どもたちが、「てつがく対話」の時に、自分たちの椅子や長ベンチ(4~5人が)を環にして並べたものだ。そして、内側に向かって座って、対話するのだ。



「自分の椅子を使ったサークル」(3年生)

サークルの利点は、互いの顔を見ながら対話できること、次の話者をすぐに指名できること、自分の発話に対する全員の反応が見えること、机がないので話し合いに集中できること、などがあげられる。この長所

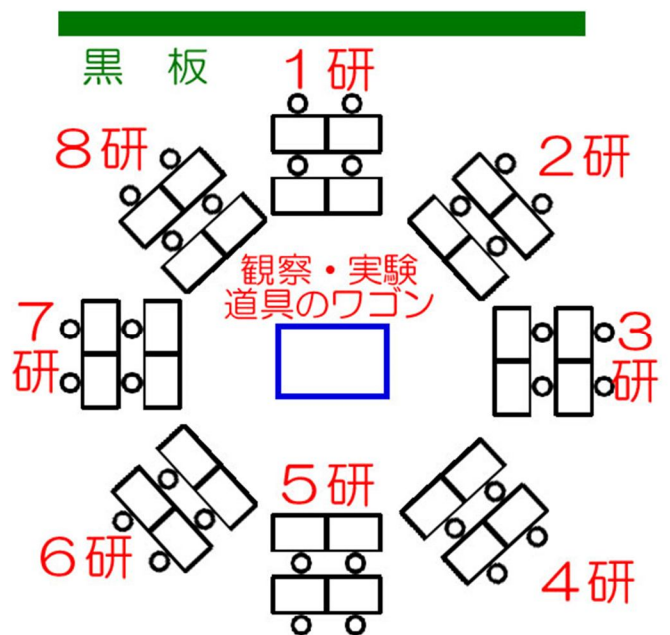
を、3年生の理科の授業にも取り入れることができないかと考えたのである。



「長ベンチ(サークルベンチ)を使ったてつがく対話」

### 「理科サークル」の形

研究所(ファミリー)の形は崩さないで、教室全体は、サークルの形に机を配置する。



「3年生の理科サークルの机と椅子の配置」

普段、3年生の子どもたちは、4~5人のファミリー(班)で生活、活動をしている。理科ではファミリーを「研究所」と呼んでいるが、このファミリーの形を崩さないで、全体の並べ方だけを中心に向けて並べたのが「理科サークル」である。中心には観察・実験に使う材料や道具が置いてある。理科での班(研究所)の形を残しながら、サークルの利点も取り入れた活動形態を試みようと思ったのだ。